



KOKORO  
**意style**

第108期 第2四半期報告書

2018年4月1日～2018年9月30日

**ハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板**

現在、世界で生成されるデジタルデータ量は爆発的に増加しており、データ記録に使用されるHDDの需要は今後も伸長が見込まれています。HDDの性能を左右する重要な部品の一つが磁気ヘッドであり、その土台となる部分が「磁気ヘッド基板」です。

 日本タングステン株式会社

## 企業理念

Our Corporate Philosophy

日本タングステンは、  
世界の人々と従業員の  
明るい未来を実現するために

- マテリアルからはじまる価値創造に挑戦し続けます。
- 常にNo.1を目指し、かけがえのない存在であり続けます。

## 行動規範

Our Way

- 私たちは、情熱を持って、失敗を恐れずチャレンジします。
- 私たちは、当事者意識を持って、すぐ行動しやり遂げます。
- 私たちは、相手の立場になって、期待以上で応えます。



## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、各地で発生した自然災害で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、当期は2020中期経営計画のスタート年度にあたり、目標達成に向けて、グループ総力を挙げて取り組んでおります。

ここに第108期第2四半期の業績報告について株主の皆様にご報告させていただきます。

今後とも日本タングステングループを何卒よろしくご祈り申し上げます。

2018年12月

取締役社長 後藤信志

## これからも株主様からの期待に応える会社として、日本タングステンは持続的な成長を目指してまいります。

Q 当第2四半期の決算のポイント等について教えてください。

好調な経済環境に加え、売上拡大策と継続的なコスト対策も奏功し、増収並びに大幅増益となりました。

当第2四半期における経済環境は、国内は企業の設備投資の増加や雇用情勢の改善等により緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外は欧米を中心に堅調に推移する中、米中の貿易摩擦による世界経済の下振れリスク増大等により先行き不透明な状況が続きました。

このような環境のもと、当社グループでは、注力市場をターゲットとした展示会での積極的なPRや海外市場を含む新規拡販活動等により、売上拡大に取り組んでまいりました。

この結果、情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板及び電子部品関連の金型製品が当初計画よりも好調であったほか、衛生用品関連のNTダイカッターも国内・海外共に堅調に推移した結果、当第2四半期の連結売上高は63億1百万円(前年同四半期比18.3%増、対計画比14.7%増)となりました。

また損益面では、売上増加による利益幅の拡大、さらには新規設備導入による品質・生産性の向上や工程内不具合の削減等コスト対策効果も加わり、営業利益は6億37百万円(前年同四半期比89.1%増、対計画比99.0%増)、経常利益は7億28百万円(前年同四半期比48.5%増、対計画比82.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億21百万円(前年同四半期比40.4%増、対計画比86.0%増)となりました。(事業別の業績については本報告書P5をご参照下さい)

Q 現時点での今年度(2019年3月期)見通しについてお聞かせください。

米中の貿易摩擦による影響等が、当初の業績に及ぼす影響は限定的と予想しており、通期の業績予想を上方修正いたしました。

当社グループでは現在、2020年度を最終年度とする「日本タングステングループ2020中期経営計画」を策定し、4つの基本方針「人材の育成」「新商品の創出」「ものづくりの強化」「グローバル市場での拡販」を掲げ、最終年度には連結売上高142.6億円、営業利益12.0億円、ROE8.3%の達成を目指しております。

このような中、2019年3月期の通期業績につきましては、売上高は、情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板や自動車関連のEV用接点製品が当初見込みよりも好調に推移しております。また、衛生用品関連のNTダイカッターも国内、海外ともに顧客の設備投資が堅調に推移していることから、当初予想を上回る見込みとなりました。

利益面では、下期に業務効率化を目的としたRPA (Robotic Process Automation) などのシステム関連費用や、設備導入に伴う減価償却費等の増加が見込まれますが、売上高が堅調に推移していることから当初予想を上回る予定であります。

以上を鑑み、このたび当社では年度計画を上方修正いたしました。具体的には今年度(2019年3月期)の連結業績予想として、売上高は126億円(前期比13.5%増)、営業利益は9億90百万円(同31.0%増)、経常利益は11億10百万円(同13.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は8億30百万円(同19.2%増)の達成を計画しております。

Q 株主還元状況についてはいかがですか？

中間配当は当初計画よりも10円増配となる1株当たり40円とさせていただきます。

株主の皆様への利益還元について当社では、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための

# トップインタビュー

設備・人材・研究などへの戦略的投資、中長期的な財務体質の強化等を勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めております。

こうした方針のもと、今年度の業績が当初計画を上回る見込みであることから、中間配当は当初計画よりも10円増配となる、1株当たり40円とさせていただきます。同じく期末配当予想につきましても当初計画より20円増配し、1株当たり50円とさせていただきます。これにより年間配当予想は、1株当たり90円となります。なお当社では昨年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しており、これを考慮した年間配当額の対比では、今年度は前年度よりも実質10円の増配となる予定です。

**Q** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

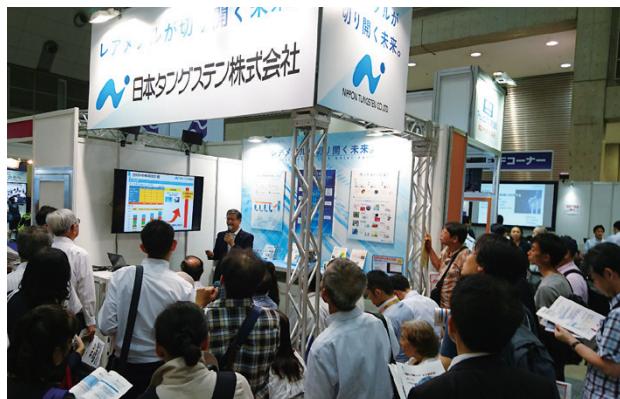
**株主様との対話の機会を増やし、皆様からの声に耳を傾け、当社の持続的成長への道を共に歩んでまいりたいと考えております。**

言うまでもなく株主の皆様方は、私たち日本タングステンにとって重要なステークホルダーであり、当社では株主総会やIR活動等を通じて、皆様との対話や関係構築をより深められるよう努めております。

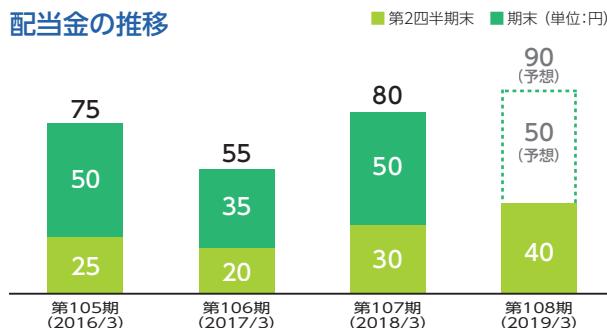
その一環としてIR活動の継続的強化を進めており、株主様また個人投資家の皆様とのコミュニケーションの機会を増やすべく、最近では「日経IR・投資フェア2018」や「第88回福証IRフェア」へ出展しました。

当社ブースには多くの個人投資家が来場され、製品・技術の特徴、財務状況や今後の成長戦略などについて直接ご説明することができた有意義な機会となりました。なお今後の予定として、来年2月の「東証IRフェスタ2019」への出展も決定しております。

当社の経営に対してご理解やご賛同をいただき、応援していただけるよう、当社はこれからも皆様とのより良い関係構築に努力してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 配当金の推移



※当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。上記グラフは第105期に株式併合が行われたと仮定し、1株当たり配当金を表記しております。

## ●株主の皆様の声をお聞かせください。

### ～アンケートのお願い～

当社では、株主の皆様からのお声をいただいて、今後のIR活動を充実させてまいりたいと考えております。同封のアンケートはがきをご確認いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた株主様の中から抽選で100名様にクオカード(1,000円分)をプレゼントいたします。

(締切: 2019年1月31日到着分まで)

※当選者の発表はクオカードの発送をもって代えさせていただきます。

# ハードディスクドライブ(HDD)用 磁気ヘッド基板

## 磁気ヘッド基板とは？

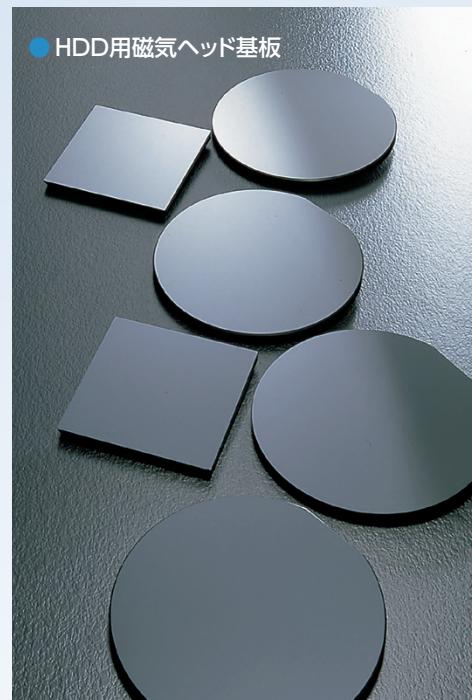
現在、IoTに象徴されるように、インターネットやクラウドサービスに接続される機器は増え続けており、世界で生成されるデジタルデータ量は爆発的に増加しております。それに伴い、データ記録に使用されるHDDの需要は継続して伸長が見込まれており、データセンターなどで使用されるニアライン向け大容量HDDはその一つです。HDDは、今後も大容量化を目指した技術革新が進み、現代におけるHDDの果たす役割は益々大きくなっていくものと思われます。

HDD内部はレコードプレーヤーのような作りで、アームの先端にある磁気ヘッドにより情報の読み書きが行われます。磁気ヘッドはHDDの性能を左右する重要な部品であり、その土台となる部分が「HDD用磁気ヘッド基板」です。

「HDD用磁気ヘッド基板」は主に円盤の形で出荷され、お客様の下で薄膜形成プロセスや精密加工プロセスを経た後、スライダと呼ばれる小さな電子部品となり、磁気ヘッドとしてHDDに搭載されます。そのため、「HDD用磁気ヘッド基板」には特に、精密加工性、均質性、ならびに耐摩耗性に優れることが求められます。当社は $\text{Al}_2\text{O}_3$ -TiCセラミックスの研究・改善を重ねることで「HDD用磁気ヘッド基板」の商品化に成功し、徹底した品質管理体制の下で製造を行なうことにより高品質の基板を安定して供給しております。

現在、当社の「HDD用磁気ヘッド基板」は世界トップシェアを誇る当社の主力商品です。今後も絶え間ない技術開発や徹底した品質管理を継続し、現代の情報化社会の発展に貢献してまいります。

## 磁気ヘッド基板の製造工程

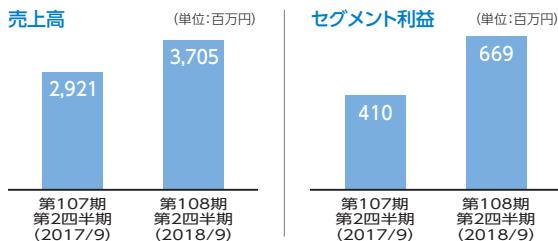


# 事業別の業績概要

## 機械部品事業

衛生用品関連のNTダイカッターは、当社の生産体制強化とお客様へのイノベーション浸透が進んだこと、国内向けでは設備投資が増加基調となったこと、海外向けも好調に推移した結果、大幅増収となりました。また、情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板は、需要が底堅く推移しました。

この結果、機械部品事業の**売上高は前年同四半期比26.8%増の37億5百万円**となり、**営業利益は前年同四半期比63.0%増の6億6千9百万円**となりました。



●超合金製品  
売上高 **2,497百万円**



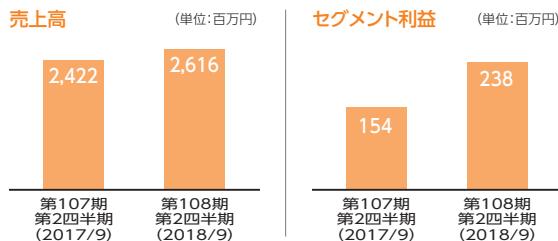
●セラミック製品  
売上高 **1,208百万円**



## 電機部品事業

自動車関連の電極製品は一部製品の需要が減少し微減となりましたが、EV用接点製品は海外向けが好調に推移し増収となりました。また、医療関連のタングステン製品も主に海外向けが堅調に推移しました。

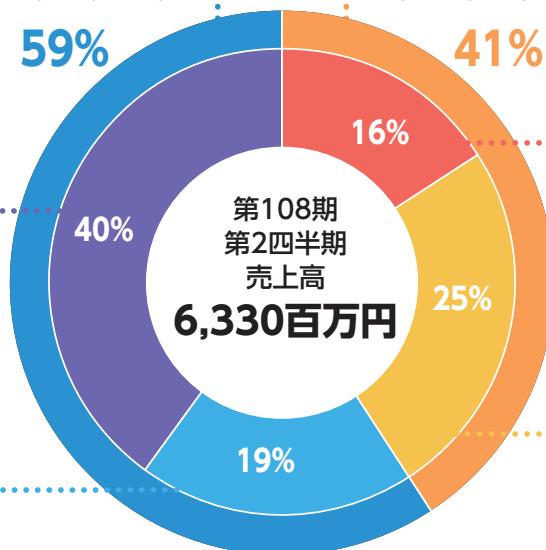
この結果、電機部品事業の**売上高は前年同四半期比8.0%増の26億1千6百万円**となり、**営業利益は前年同四半期比54.3%増の2億3千8百万円**となりました。



●金属材料製品  
売上高 **1,002百万円**



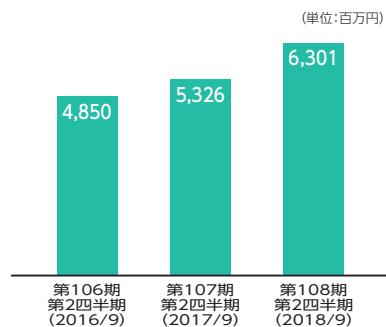
●電気・電子材料製品  
売上高 **1,613百万円**



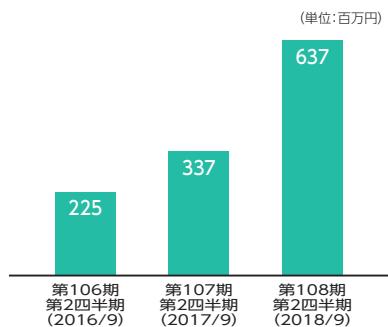
(注)売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額です。

# 業績等の推移

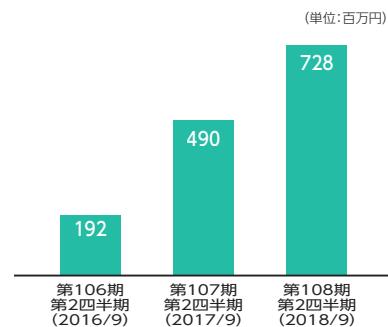
## 売上高



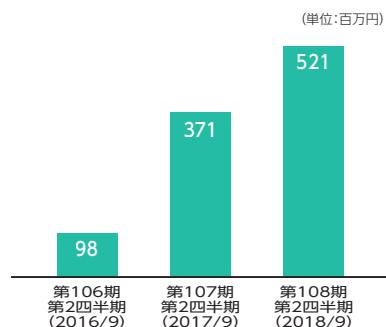
## 営業利益



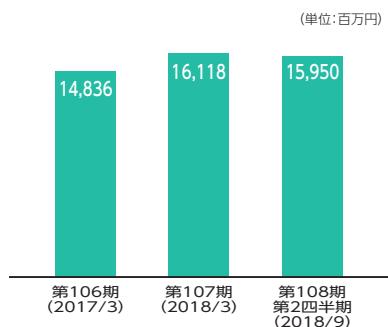
## 経常利益



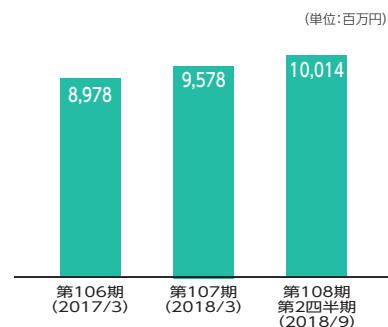
## 親会社株主に帰属する四半期純利益



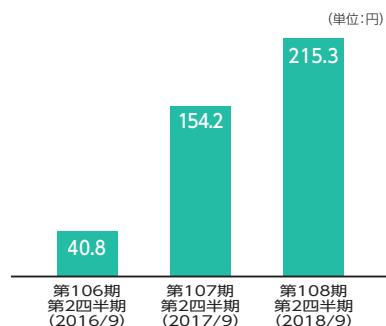
## 総資産



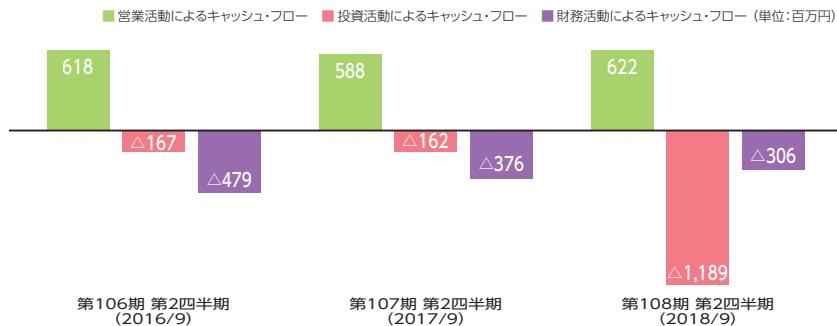
## 純資産



## 1株当たり四半期純利益



## キャッシュ・フローの状況



## 会社の概要 2018年9月30日現在

設立	1931年(昭和6年)4月1日
資本金	25億950万円
従業員数	499名(連結)
本社	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
事業所	支店：東京・大阪・名古屋・九州 工場：基山・飯塚・宇美

## 役員 2018年10月1日現在

取締役社長	後藤 信志 代表取締役 社長執行役員
取締役	徳本 啓 常務執行役員 中期経営計画推進担当
取締役	大島 正信 執行役員 経営戦略本部長 コンプライアンス担当
取締役	毛利 茂樹 執行役員 機械部品事業本部長、開発技術センター担当
取締役	山崎 洋 執行役員 製造統括本部長 兼 基山工場長
社外取締役	伊崎 数博 九州電力株式会社 代表取締役副社長
取締役	今里 州一 監査等委員(常勤)
社外取締役	斉藤 芳朗 監査等委員 徳永・松崎・斉藤法律事務所 代表弁護士
社外取締役	久留 和夫 監査等委員 久留公認会計士事務所 代表
	三島 彰 執行役員 電機部品事業本部長
	江原 清貴 執行役員 営業本部長
	中原 賢治 執行役員 機械部品事業本部副本部長

## 関連会社 ■ 連結子会社 ● 持分法適用関連会社

国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株式会社昭和電気接点工業所</li> <li>■ 株式会社福岡機器製作所</li> <li>■ 株式会社エヌ・ティー・サーピス</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上海恩梯三義実業発展有限公司</li> </ul>
アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIPPON TUNGSTEN USA, INC.</li> </ul>
イタリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIPPON TUNGSTEN EUROPE S.r.l.</li> </ul>
タイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SVニッタン株式会社</li> </ul>

## 株主メモ

決算期	3月31日
基準日	定時株主総会、期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要あるときはあらかじめ公告して定めます。
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京(2部)、福岡
証券コード	6998
公告方法	当社のホームページ( <a href="https://www.nittan.co.jp/">https://www.nittan.co.jp/</a> )に掲載します。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

## 株式の状況 2018年9月30日現在

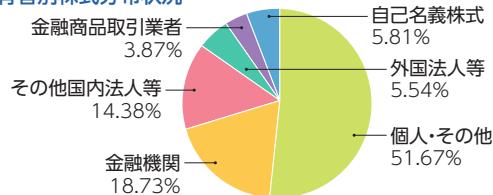
発行可能株式総数	10,000,000株
発行済株式の総数	2,577,760株
単元株式数	100株
株主総数	3,020名

## 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
九州電力株式会社	166	6.86
株式会社福岡銀行	107	4.41
日本タングステン従業員持株会	82	3.41
みずほ信託銀行株式会社	64	2.64
明治安田生命保険相互会社	60	2.47
日本タングステン取引先持株会	58	2.39
株式会社西日本シティ銀行	50	2.09
株式会社佐賀銀行	50	2.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	41	1.69
宇部マテリアルズ株式会社	40	1.64

1. 持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。
2. 上記の他、自己株式を149千株(5.81%)保有しております。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



## 株式事務手続きに関するお問い合わせ先

### ●証券会社等に口座をお持ちの株主さま

住所・氏名等、届出事項の変更 配当金受取方法の変更 単元未満株式の買取請求等 未受領の配当金の お受取について	お取引の証券会社等までお問い合わせください。  下記株主名簿管理人(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
---	--

### ●特別口座をお持ちの株主さま

各種手続き等	下記特別口座管理機関(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
--------	---------------------------------------

### 株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部  
〒168-8507東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
☎0120-288-324 (受付時間 土・日・祝を除く9:00~17:00)